

脚本家

山田太一の バトンを明日へ

東京藝術大学大学院映像研究科 公開講座

2026年9月26日 13時開場



脚本：山田太一 NHKドラマ

『今朝の秋』上映
+アフタートーク

登壇者

長谷川佐江子 「山田太一のバトンをつなぐ会」代表 山田太一の次女

合津直枝 テレビマンユニオン・プロデューサー/演出
ドキュメンタリー『山田太一からの手紙』（2024年 NHK Eテレ）

大石みちこ 映画専攻 脚本領域教授

主催：東京藝術大学大学院映像研究科、横浜市にぎわいスポーツ文化局

※本講座は、東京藝術大学大学院映像研究科と横浜市にぎわいスポーツ文化局が連携して行う地域貢献事業です

脚本家 山田太一のバトンを明日へ

概要

『男たちの旅路』『岸边のアльバム』『ふぞろいの林檎たち』『獅子の時代』など、数々の名作ドラマを残した脚本家・山田太一氏の逝去から間も無く3年。次女・長谷川佐江子さん、合津直枝プロデューサーらは「山田太一のバトンをつなぐ会」を設立し、作品と資料を次世代に役立てる活動を始めています。この活動は2026年、第42回ATP賞特別賞を受賞しました。

映像研究科映画専攻・馬車道校舎の近くに位置する放送ライブラリーで開催された『山田太一上映展示会一名もなき魂たちを見つめて―』（2025年12月～2026年2月）では、多くの観覧者の心をとらえました。

今回のオープンシアターでは、上映展示会で上映のなかった『ドラマスペシャル 今朝の秋』（1987年 出演：笠智衆、倍賞美津子、樹木希林、杉村春子、杉浦直樹 他）を上映し、次女・長谷川佐江子さんに「父・山田太一」について、合津直枝プロデューサーに「山田太一のバトンをつなぐ会」のお話をうかがいます。聞き手は脚本領域教授、大石みちこです。

タイムスケジュール

13:00-13:30	開場・受付
13:30-15:00	『今朝の秋』上映
15:00-15:15	休憩
15:15-16:15	アフタートーク 長谷川佐江子 × 合津直枝 × 大石みちこ
16:30	終了予定

受付

2026年9月26日（土） 13:00開始

当日先着順 定員:80名 入場料:無料

* 事前予約での座席の確保はございません。定員数に達した時点で受付を終了させていただきます。お時間に余裕を持って会場へお越しください。

会場

東京藝術大学 横浜キャンパス馬車道校舎 3階 大視聴覚室

〒231-0005

神奈川県横浜市中区本町4-44

横浜高速鉄道みなとみらい線 馬車道駅下車 5・7番出口すぐ



山田太一（やまだ・たいち）

1934年東京浅草生まれ。10歳から18歳を湯河原で過ごす。小田原高等学校・早稲田大学卒業後、松竹（大船撮影所）にて助監督として木下恵介監督に師事。1965年に脚本家として独立。多くのテレビドラマや小説、舞台を手掛けた。主なテレビドラマ作品『男たちの旅路』『岸边のアльバム』『獅子の時代』『日本の面影』『ふぞろいの林檎たち』、小説『異人たちとの夏』、戯曲『ラヴ』など。向田邦子賞、山本周五郎賞、小林秀雄賞はじめ、芸術選奨文部科学大臣賞、菊池寛賞、毎日芸術賞、朝日賞ほか多数受賞。2023年11月逝去。

今朝の秋・あらすじ

蓼科で隠居生活を送る主人公（笠智衆）は、ひとり息子（杉浦直樹）がガンを患い余命いくばくもない、と知らされ東京に向かう。そして、そこで20余年も前に別れた妻（杉村春子）と再会する。いま親として何ができるか、何を語れるか……別々の人生を送ってきた老夫婦が一家の思い出の地・蓼科で改めて家族のつながりに思いを深くする。老いと人生の機微を深く静かに描きだす山田ドラマの名作のひとつ。

会場までの地図

